

平成28年度 南アルプス市立落合小学校 前期自己評価書	平成28年8月22日
学校長 笹本 仁	記述者 教頭 新津友子
学校教育目標 「心豊かで たくましく よく学ぶ児童の育成」	
◇本年度の取組重点	
<p>①どの子にとっても分かりやすい授業をめざし、基礎基本の「習得」とそれらを「活用」しての「思考力・判断力・表現力」の育成を図る。(特にすべての学習の基盤となる読み・書き・計算力は9割以上の定着を図る)</p> <p>②授業の中で積極的な生徒指導を行い、いじめ・不登校のない学級・学校を目指す。</p> <p>③通常学級・特別支援学級の連携をふまえ、特別支援教育推進に向け校内支援体制の一層の充実を図る。</p> <p>④「落合小生活のきまり」「落合小学習のきまり」を学校生活の基とする。また、児童とともに「落合小こびっとルール」を作り、これに全員で取り組む。</p> <p>⑤読書習慣、辞書利用習慣、家庭学習習慣を含めた学習習慣を育成する。また、学習に主体的に取り組む学習習慣を育成する。</p> <p>⑥生涯を通じて健康な生活を送るために必要な食習慣、衛生習慣、運動習慣等の生活習慣を育成する。</p> <p>⑦児童会活動を通して、より良い学校生活づくりのために協力して諸問題を解決していく力を育成する。</p> <p>⑧「地域ふれあい道徳事業」「小笠原流礼法を活かした心の教育推進事業」に取り組む。</p> <p>⑨安全点検・登下校指導・避難訓練を計画的に行い、安全・安心な環境で生活できるようにする。</p> <p>⑩情報を積極的に発信・受信して家庭・地域・関係機関との連携を深め「開かれた学校づくり」を推進する。</p>	
I 全体評価	
<p>今年度は、「本年度の取組重点」を意識して評価項目の文言を変更した昨年度の経過を受け、「本年度の取組重点」を意識して評価を行った。自己評価は、【A：そう思う B：ややそう思う C：ややそう思わない D：そう思わない】の4段階評価で実施した。</p> <p>本年度第1回の自己評価結果は、総合的に見ると多くの質問内容で、肯定的な回答が大勢を占め、総じて評価は高い。</p> <p>「学校教育目標」 ①～④ (A・B：93%)</p> <p>「学校経営・組織」 ①～⑥ (A・B：93%)</p> <p>「学習指導・生徒指導」 ①～⑥ (A・B：97%)</p> <p>「地域との連携」 ①～⑤ (A・B：100%)</p> <p>「学校の特色」 ①～③ (A・B：94%) となっている。</p> <p>いずれの項目においても、肯定的な意見が90%を超える結果となったが、どの項目にも、Cの「ややそう思わない」という評価がある。</p>	
II 各項目ごとの評価結果(達成状況・改善策)	
1 「学校教育目標について」	
達成状況	<p>・①②④の項で、C「ややそう思わない」という評価があった。</p> <p>①「学校教育目標達成のため、実態に即した学校経営構想《グランドデザイン》が作成されている。」について、C評価1名。</p> <p>②「学校経営構想《グランドデザイン》に基づき、全職員が呼吸を合わせ、協力して学校運営が行われている。」について、C評価2名。</p> <p>④「PDCAのマネジメントサイクルで教育活動が取り組まれている。」について、C評価1名。</p> <p>③「学年の教育活動が、学校経営構想《グランドデザイン》を踏まえたものになっている。」については、肯定的評価100%であった。</p> <p>・「重点10項目を常に意識し、学期途中でも確認し合っていくことも必要だと思う。」という意見があった。</p>

改善策	<ul style="list-style-type: none"> 重点 10 項目についても確認し合いながら進めていく。具体的には、運営委員会において 10 項目及びグランドデザインについても議題として取り上げ、成果や課題を明らかにし実践に結び付けていく。
2	「学校経営・組織について」
達成状況	<ul style="list-style-type: none"> ③, ⑥については、「A：そう思う B：ややそう思う」という評価になっている。 ①②④⑤の項で、C「ややそう思わない」という評価があった。 <ul style="list-style-type: none"> ①「学校経営構想《グランドデザイン》に基づき、各校務分掌が機能している。」について、C評価 2 名。 ②「相談、連絡、報告が遺漏なく確実に行われている。」について、C評価 2 名。 ④「安全点検・登下校指導・避難訓練を計画的に行い、安全・安心な環境で生活できるようにしている。」について、C評価 1 名。 ⑤「事件・事故や災害発生の際に、適切で迅速な対応ができるよう役割分担が明確化されている。」について、C評価 1 名。 「それぞれの担当が工夫努力をし、遺漏なく仕事をしているので学校が機能していると思う。(先生方のメンタルが気になり)」「職員会議、終礼で提案され決定したことについては共通理解が得られたものとして尊重してほしい。」という意見があった。
改善策	<p>学校経営に関することについて情報の共有が充分でなかったり、改善すべき点があるということがアンケート結果に表れている。改善すべき内容について職員会議で話し合い、2 学期以降の教育活動に活かしていく。</p>
3	「学習指導・生徒指導について」
達成状況	<ul style="list-style-type: none"> ①②③④⑤⑥については「A：そう思う B：ややそう思う」という評価になっている。 ⑥「通常学級・特別支援学級の連携をふまえ、特別支援教育推進に向け校内支援体制の一層の充実を図っている。」については、C評価 2 名。 「学習の取組は良く成されている(成果は出つつある)。生徒指導の取組は意識はあるが、統一した指導を重点的にしていきたい。」という意見があった。 山梨県学力把握調査、全国学力・学習状況調査の結果については、校内研で分析をするなど、当該の学年だけでなく全職員での共通理解を図り取り組んでいる。また、家庭学習・漢字チャレンジ・チャレンジテスト・チャレンジルーム等に取り組むことにより、児童の意欲を引き出し、基礎基本の習得と学習習慣の向上を目指して取り組みを継続している。
改善策	<p>生徒指導について、課題を把握し、指導の目標や内容等について全職員で共有し、経過や結果がわかるような統一した指導を重点的にしていく。</p>
4	「地域との連携について」

達成 状況	<ul style="list-style-type: none"> ①, ②, ③, ④, ⑤すべてにおいて, 「A: そう思う B: ややそう思う」という評価になっている。 「自分達でできることはやりながら, 市や関係機関, 落合すももの里応援団等積極的に活用するようにしたい。」という意見があった。
改善 策	<ul style="list-style-type: none"> 今後も「学年だより」「学校だより」等により発信するとともに, 保護者や地域の感想や意見を受信し再発信していく。 保護者や地域の意見に丁寧に対応することで, 信頼される学校づくりを推進する。 地域の人材や施設を活用し, 地域の教育力を生かしていく。 落合すももの里応援団の応援ありがたい。ボランティアの方々に喜んでいただけるような学校づくりを進めていきたい。
5 「学校の特色について」	
達成 状況	<ul style="list-style-type: none"> ①, ②, ③とも, 「A: そう思う B: ややそう思う」という評価が多かった。 ①「個に応じ, 特性に対応した指導・ユニバーサルデザインの視点を取り入れた環境づくりに努めている。」について, C評価1名。 ②「地域の特色を教材化し, 郷土を知り, 誇りに思えるような指導に努めている。」について, C評価1名。 ③「地域ふれあい道徳事業・小笠原流礼法を活かした心の教育推進事業」に取り組んでいる。」について, C評価1名。 「環境, 心の教育, 郷土の教材化は今後の課題だと思う。」という意見があった。
改善 策	<ul style="list-style-type: none"> 特別支援教育は本校の特色の一つである。特別支援学級においても通常学級においても, 個に応じ特性に応じた指導について研修を深め, 実践力を身につけていくとともに, 学び易い環境もつくっていく。 各学年の総合的な学習において地域を教材として取り上げている。今後も学年を超えて情報交換しながら地域教材を開発し, 郷土を誇りに思えるような実践を行っていく。 教育を語る会など, 今ある活動に工夫を加え, 学校・家庭・地域の連携を図る場となるような取組をしていきたい。(地域の講師など)

Ⅲ 児童及び保護者へのアンケートによる評価

1 「学校生活について」(児童アンケート項目：①，⑩，⑪，⑫)

◇「①学校が楽しいか」の項目は、児童は85.7%、保護者は90%が肯定的であった。

・「あまり楽しくない」「楽しくない」と回答している児童については、原因を探り、個別に丁寧に対応していく。

◇「⑩掃除活動」「⑪きまりや約束」「⑫児童会活動・学校行事」の項目は、95%以上の児童が肯定的な回答である。特に「⑩掃除活動」は97.5%の児童が肯定的評価であり、児童会本部、6年生が中心となり児童会活動として取り組んだ成果が表れている。

2 「授業について」(児童アンケート項目：③，⑤)

◇「③授業がわかるか」の項目について、児童は96.8%、保護者は96%が肯定的であった。

・概ね肯定的であるが、「あまりわからない」「わからない」と回答している児童の声を真剣に受け止めなければならない。校内研究や一人一実践と関連させて「どの子にもわかる授業づくり」をするとともに個別指導等も含め、工夫をしていく。

◇「⑤授業中の発言」の項目については、肯定的な回答は71.6%であり、本校の大きな課題である。校内研究や授業改善の成果が上がるように努める。

・今年度の校内研のテーマ

『学び合い高め合う児童の育成を目指して ～言語活動の充実を取り入れた授業作り～』

を今後も共通理解のもとに実践していく。また、落合小スタンダードによる授業づくりを着実に実践し、全ての子どもに充実した学びを保障できるように指導していく。

3 「友達・教師との関わりについて」(児童アンケート項目：②，④)

◇「②仲良く遊ぶ友達」の項目は、肯定的評価が96.7%、3.3%が否定的回答であった。

・全体としては、概ね良好な関係が築かれていると考えられるが、これからも児童の行動や様子を観察する中で、適切な対応を迅速に図っていく。

・職員全員で情報交換を行い、気になる児童や出来事には全職員で対応していく。

◇「④困ったとき話ができる先生」の項目は、肯定的な回答が86.4%となっている。

・担任だけでなくすべての教職員が児童とのふれあいを大事にしていく。気になる児童については、こちらから声をかける。

・児童の「困った」に気付き、対応できるようにきめ細かい児童観察を行い、問題が大きくなる前に全職員で共有し、統一した指導をしていく。

4 「家庭での様子」(児童アンケート項目：⑥，⑦，⑧，⑨)

◇児童アンケート「宿題の他に家で自主勉強をしますか」についての肯定的評価は62.9%、保護者アンケート「基本的な生活習慣や家庭学習の習慣が身についているか」については、保護者の肯定的評価は76%であった。

・家庭での学習については本校にとって最も大きな課題ととらえ、職員会議で課題を共有し、今後の目標、改善策を明確にして取り組んでいく。

◇「地域の人にあいさつをしているか」についての肯定的評価は、児童が91.9%、保護者は83%である。

・あいさつについての児童の自己評価の方が保護者より高い。これからも、あいさつにも取り組んでいく。

◇スマホ・携帯所持人数は、35名。これは、全校児童の約26%で、市全体の平均35%よりは低所持率になっている。そのうちルールがあるのは約7割、フィルタリングをかけているのは6名であった。・5,6年生の児童保護者対象の学習会を確実にしていく必要がある。

V まとめ

- ・取組重点（落合小学校の状況をふまえた教育活動：特色ある教育）に基づき、全職員の共通理解のもと教育活動を行うことができるように今後とも取り組んでいく。
- ・教職員の自己評価・保護者アンケートともに、全体的に肯定的な評価が多い。A評価が低い項目もあるので、さらなる学校教育活動の充実を目指し取り組んでいきたい。
- ・教職員一人一人が日頃の教育活動を見直していくとともに、それぞれの校務分掌において具体的な改善策を提案し、全職員で共通理解して取り組んでいきたい。
- ・この結果を資料として学校関係者評価委員会に提案し、意見聴取・交換会等を実施することで、更なる学校教育の向上を図っていきたい。

< 2学期からの取組重点・具体的な改善策まとめ >

1 児童アンケート「授業中に発言や質問を言うことをしますか。」を改善する取組の強化

- ①「相手に伝わる話し方ができるようにする。伝わるとうれしい！！」の指導をする。
- ② 本校の校内研究のテーマで取り組んでいく。

2 児童アンケート「宿題の他に家で自主勉強をしますか。」を改善する取組の強化

- ①アンケートの意図するものはなにか。子どもたちにどうしてほしいのか。どんな力を付けてほしいのか。 → 自分で課題をみつけて自主勉強
- ②文言を変える。

「宿題の他に、自分で課題をみつけて自主勉強(自学もふくむ)をしていますか。」

以上を重点課題としながら、学校教育目標の実現を目指して全力を尽くしていきます。